

ゆずりは通信

第31号 平成29年4月1日(年2回発行)

発行：ゆずりはの会事務局

電話：0565-35-7182

Eメール：takekaki@hm8.aitai.ne.jp

ホームページ：

<http://www.hm9.aitai.ne.jp/~warabino/>

ゆずりはの会平成28年12月定例会

12月13日(火)午後7時～ 福祉センター 34会議室 8人が参加

<内容>

1. 曾我部智子さん:こどもの誕生に関するいろいろな話

* 20代の後半、会社勤めをしていたが、父親の死など、身の回りで色々なことが

起こった。自分の生き方を考え、再び学校に通い、国家資格を得て、助産師となった。

結婚を機に、1年前に東京から、豊田市に引っ越した。

今は地域保健課で保健師として働いている。

* 子供たちに、“いのち”の大切さを理解してもらう活動を行なっている。

出産時の死亡率が低いこともあり、出産が軽いとみられているが、実際の現場に立ち会ってきた印象から言うと、大変な努力がはらわれて、誕生が成立している。

赤ちゃん自身は、3つに分かれている頭蓋骨をずらして、細い産道を通ってくるなど

様々な工夫もしている。この過程で大人の7倍のストレスを感じていると言われている。

* 虐待とか、DVとか子供を取り巻く環境は決して明るいものではない。誕生の話を理解することで、環境が良くなってほしいと願っている。

2. 昔は、3世代とか4世代が、一緒に暮らしていたし、人の移動が少なかったので、知らず

知らずのうちに、周囲の人から知識を得たり、電灯・習慣を覚えることができた。今は

核家族化が進み、親子だけで暮らしているので、考え方がユニークになりがち、レベルの差も広がってしまう。

3. 子供について現実はどういうことをやっているのか。高齢者についても色々やっているとい

うが、自分には伝わってこない。

4. 行政とか周囲がなかなか自分の思うようにやってくれない、と言うのも確かだろうが、自分の

身近かで、少しずつ 事を進めている人も多い。自ら動いて、その結果として周囲を変えてゆく努力も必要ではないか。

5. 「こども食堂」と言う話を聞いた。長久手市では実際に活動が始まっているようだが、豊田市ではどうか。

「おいでよ！うめつぼファミリークラブ」と言うグループが、いきなり「こども食堂」ではないが、

同様の趣旨の活動を始めたようだ。事情が判ったら、支援をする用意はある。

6. 会員の天野さんから、「看取り士:柴田久美子」について紹介された新聞記事のコピーが配布された。天野さんは急用とのことで、退席したので、説明は後日となる。

看取り士の養成講座では、「胎内内観」と言う研修が行われると聞いた。狭い中に閉じこもって自分を見つめる訓練とのことである。例えば、母親を対象に取り上げ、今まで自分が受けて来た恩とそれをどう返してきたかを考える。そして、母親に手紙を書く(ロールライティングと言う)。胎内にいた安心感を体験し、自らの内にある愛に気付くことを目的とする。仏教で「内観」と言う修業があるが、柴田さんが会長を務める「看取り士会」では、これを、誕生・母親と関連付けて、発展させ、「胎内」と言う言葉を付けた。

ゆずりはの会平成 29 年 2 月定例会

2 月 14 日(火)午後 7 時～ 福祉センター 34 会議室 10 名が参加

内容

1. 看取り士:柴田久美子

新聞記事のコピーを使って、活動の紹介がありました。

- * 日本マクドナルド入社、アメリカでも勤務、スパゲティ店自営、老人ホームの寮母などを経て、在宅ホスピス:なごみの里を経営。日本看取り士会代表。
- * 看取り士は、本人の側にいて、手を握るとか、会話を交わすとかをして、最期をみとる。世話をするチーム(在宅医、家族、ケアマネジャー、ホームヘルパー、見守りボランティアなど)の一員となって活動する。誰かがずっとそばにいてくれるという安心感を与える役目を担う。介護保険ではカバーできない部分があり、そこを受け持つ。
- * 在宅ホスピス:なごみの里を持っており、入居者の看取りはもちろん行う。在宅で、ひとりで過ごす人からの要請があれば全国どこへでも出かけてゆき世話をする。
- * 多くの看取り士が育つように講習会を開いている。看取り士は国家資格ではなく、民間の資格である。
- * 大府市には、看取り士がいて、有料老人ホーム:フラワーサーチ大府がある。
- * 豊田市でも、特養や、老人ホームなどが看取りをしているし、その活動は広がっている。ただし死亡診断書の作成がなかなか困難な課題である。
- * 地域医療センターも、高齢者医療を充実してきているし、施設の整備に多額の予算が計上されている。
- * 社協には、成年後見センターができるようだ。

2. プレジジョンメディスン

- * 2016 年 11 月の NHK テレビ番組の紹介。
- * がん治療については、日進月歩で開発が進んでいる。その最先端の治療法の一つを紹介。
- * がん細胞を取り出し、遺伝子に異常がないかを解析する。遺伝子に変異があると、異常な

たんぱく質を作り、それががん細胞を育てる。

そのタンパク質の発生を抑制する薬が、いくつか開発されている。

* 手術や普通の抗がん剤では治せない人にたいして、試験診療が行われ、大腸がんや肺がんに対して、一定の効果が上がっている。

日頃関心を持って、見渡していると、ガンについて新しい情報が入ってくるので、アンテナを高く張っていきましょう。

3. あいちホスピス研究会の公開講座

合計 5 回の講座が開催される。プログラムを配布済。

希望者は連絡ください。

4. ゆずりはの会の来年度の活動

今年のように来年も続ける。

近いうちに、会員を継続かどうかを尋ねる。

ゆずりはの会 3 月定例会

3 月 14 日(火)午後 7 時～ 福祉センター 34 会議室 10 人が出席

内容

1. あいちホスピス研究会の総会の様子

* ゆずりはの会は、団体として、あいちホスピス研究会に入会しているので、その総会に出席した。(河野、竹内)

* あいちホスピス研究会では、公開講座と各種のクラブ活動を行っているが、3 月の総会に合わせて記念講演が行われた。

* 「あなたは、どこでどの様に人生を繋ぎ終えたいですか」

長久手市 たいようの杜: 地域包括支援センター: 服部志津子氏が講演。

* このセンターは職員 7 人で、長久手市の半分をカバーして、

- ① 地域社会の孤立化
- ② ちょっとした手助けに困る人の存在
- ③ 孤立死・徘徊死・行方不明者をどうしたら防げるか
- ④ 増え続ける認知症人口の問題

などの課題を見据えながら、多くの活動をしている。

2. あいちホスピス研究会の

今年度の公開講座の項目を配布したので、参加希望者は連絡してください。

3. 瀬戸市の助け合い支え合いフォーラムに参加して

「支え合いの輪を広げよう」 さわやか福祉財団: 清水肇子氏

* 「自助・共助・公助」からみた地域包括ケアシステム

- * 介護保険制度の一部が変わったが、その一つは地域支援事業の狙い
- * 生活支援コーディネーター・協議体」という新しい制度の誕生
- * 地域での助け合い・支え合いが、不可欠になってきている
 - 一方、地域の繋がりが無くなっている中で、実際に活動を行うことは難しい。
 - 全国でもうまく行っているふれあい・助け合いの活動例が紹介されている。

ゆずりはの会 4 月定例会

4 月 11 日(火)午後 7 時～ 福祉センター 34 会議室 10 人が出席

内容

1. NHK テレビ 3 月 6 日の番組:「プロフェッショナル」

「最後は自宅で迎えたい」 横浜訪問診療医:小澤竹俊医師 54 歳の紹介

- * 横浜市で、在宅医療の「めぐみ在宅クリニック」を開業
 - 今までに約 2000 人の看取りを行った。毎日約 40 人を訪問
- * 最初は救急医として働き、次にホスピス医
- * 今は訪問診療医
 - 6 人の医師と スタッフ 50人の体制
- * 患者さんや家族との会話に特徴がある。その誠実な話しぶり、会話の内容に人を納得させる力がある。
- * 検査結果の数字ではなく、表情を観て、気持ちを汲み取る
 - 患者さんに家族への手紙などを書く手助けをするユニークな活動も実施

☞「看取り」という言葉を使って、話し合っているが、人により、家族により、「看取り」の内容が違っている場合がある。

2. 「みよしの家の今」 久野雅子

あいちホスピス研究会 会誌へ投稿された記事の紹介

- * みよしの家は、2 年前 2015 年に開設された。ホームホスピスの第 1 号の「宮崎かあさんの家」の流れを引き継いでいる。
 - 医療機関のホスピスと、家族が自宅で世話をする看取り との中間に位置すると言える。
- * 開設して間もないころに、ゆずりはの会:5 名が見学した。当時はまだ利用者が居なくて、将来大丈夫か、と思わせたが、現在は、満員の状態で 2 軒目の企画を考えているとのこと。
- * 自宅で、最期を迎えたいが、色々な事情でかなわない人に、家族と同じような環境が提供される、そうしたニーズが一定程度あるという事だろう。

3. 抜粋のつづり

株式会社「くまひら」と言う金庫を製造・販売する会社が発行している小冊子の紹介で、一部をコピーして配布された。

既に世に出た文章の中から、感動したものを集めて作成され、無償で配布されている。